

■ テーマ名

高齢者虐待防止に関する研究

■ キーワード

虐待、高齢者、社会福祉、権利擁護

■ 研究の概要

高齢者虐待の防止について、自治体を基盤とした体制の整備、地域における高齢者虐待防止ネットワークの構築、認知症高齢者の権利擁護など、複合的な側面からアプローチしている。

高齢者虐待防止法では虐待防止に向け市町村に、(1)早期発見の仕組みづくり、(2)個別事例への対応、(3)虐待を防止する地域づくり、(4)虐待防止の啓発などを求めている。高齢者虐待の防止において市町村の役割は重要であり、地域包括支援センターと共に取り組みを強化させていく必要があり、そのための方策を研究している。

地域において高齢者虐待を防止していくためには、虐待防止ネットワークの構築が重要となる。国は、民生委員・社会福祉協議会・自治会等からなる「早期発見見守りネットワーク」、ケアマネジャー・介護サービス事業者・介護保険施設・医療機関等からなる「保健医療福祉サービス介入ネットワーク」、警察・弁護士・権利擁護団体等からなる「関係専門機関介入支援ネットワーク」の3つを構築するよう求めているが、半数程度の市町村でしかネットワークの構築がなされていない。どのようなネットワークが好ましいのか、有効なネットワークを構築していくための方法などを検討している。

厚生労働省の調査によれば、虐待を受けている高齢者の7割は認知症を有していると言われていいる。高齢者虐待の防止において、認知症の介護のあり方は避けて通れない課題である。認知症高齢者と介護家族を社会から孤立させず地域で支えていく体制を関係者と共に構築している。

■ 他の研究／技術との相違点

研究スタイルとして、実践と研究を結びつけた開発的研究のスタイルをとっている。市町村の虐待防止体制を強化することに参画しながら、虐待の現状の分析を行っている。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

高齢者虐待防止ネットワークのあり方や、ネットワークの構築方法についてまとめていく。

■ 関連業績 (特許・文献)

水上然 (2012)「市町村における高齢者虐待への初期対応の現状と課題」社会問題研究 第61巻 p69-78

水上然, 張允植, 金高間 (2014)「高齢者虐待防止施策の韓日比較」地域福祉研究No.42 p110-119

水上然, 黒田研二, 佐瀬美恵子, 森岡朋子, 室谷牧子, 田中園代 (2015)「地域包括支援センターに勤務する専門職の認知症支援における特徴と課題」神戸学院総合リハビリテーション研究 第10巻第2号 p25-36

■ 研究者から一言

社会福祉は実践の学問です。現場と共に研究するスタイルをとっています。研究を少しでも現場の実践に役立てていければと思っています。